

【2019年4月13日～2019年4月19日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに下落しました。トルコの2年国債金利は低下しました。

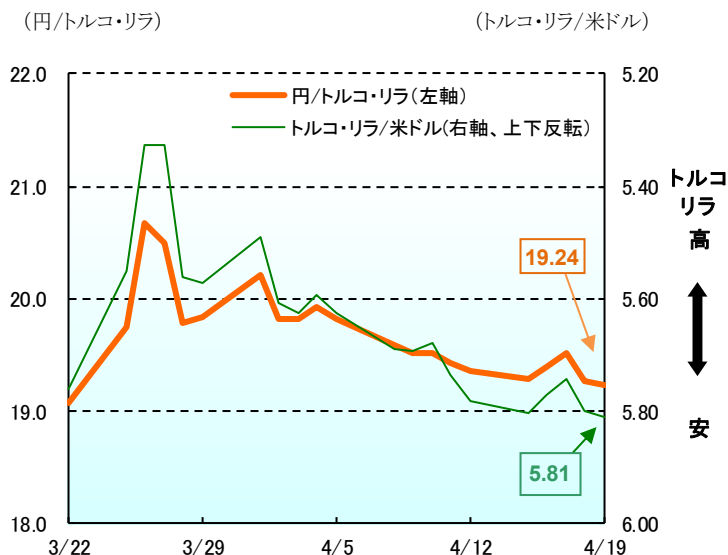
先週は、週前半にワシントンでトルコ政府による商談会が行われました。ルフサル・ペクジャン貿易相は米国との2国間貿易の規模を拡大するため、トルコ国内にゼロ関税の自由貿易地域を設置し、米国のハイテク企業を誘致したいとの考えを示しました。また、アルバイラク財務相から「ロシアからの対空ミサイルシステム調達に関してトランプ米大統領と協議する」との発言がありました。これらにより対米関係の改善が期待され、トルコ・リラは週前半には対米ドル・対円ともに上昇しました。しかし、週後半には「トルコの純外貨準備高はかさ増しされており、通貨防衛の余裕は乏しい」との報道が伝わり、トルコ・リラは売られ、一週間では対米ドル・対円ともに下落しました。国債金利は低下しました。

【2】今週の見通し

今週は、25日（現地、以下同様）にトルコ中央銀行の金融政策理事会が予定されています。市場では政策金利は据え置かれるとの見方が優勢です。また次週30日には中央銀行からインフレレポートが発表される予定です。トルコ経済が減速するなか、インフレの鈍化を確認する局面が続きそうです。

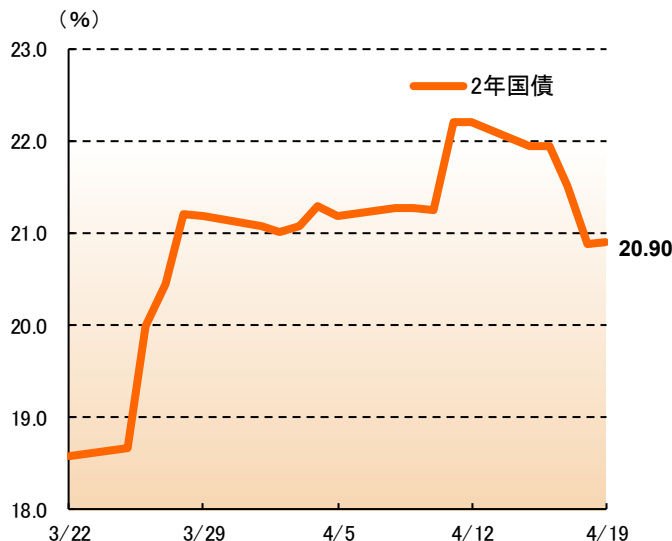
また、月初より混乱が続いていたイスタンブール市長選の結果は、最高選挙裁判所が野党候補の勝利を公式に発表し、エルドアン大統領が「選挙での言い争いを過去のものとするべき」と発言し、いったんの決着を見せました。一方で、外貨準備高の問題や、対米関係をめぐる課題が残る中で、トルコ・リラには下落リスクが引き続き残ります。また、来週には日本が大型連休となるため、突発的な相場変動に注意する必要があります。

【トルコ・リラ 為替推移】(2019年3月22日～2019年4月19日)



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】 (2019年3月22日～2019年4月19日)



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <https://www.daiwa-am.co.jp/>